



題字・天野貞祐

### 主な内容

まだまだ続く新型コロナウイルス感染症との闘い	木原正義	(1)
令和2年度 通常総会・懇親会報告		(2)
目白だより O B 講演会	齋藤有子	(3)
コラム・ドイツ 「日本誌」の著者ケンペルの生地で、獨協の大先輩の句碑に出会う	木田宏海	(4)
緊急特集 新型コロナウイルスと闘う同窓生		(5)
O B 会紹介コーナー ワンダーフォーゲル部 O B 会	手島達雄	(8)
獨協ぶらり旅		(9)
新宮譲治先生を悼む	新井孝重	(11)
畏友 新宮譲治君を悼む	小林明博	(12)
獨協学園(学び舎)の思い出	森田孝	(13)
寄付金納入者一覧		(13)
昭和44年卒 古希を迎える獨協同窓会	磯谷孝夫	(14)
クラス会・O B 会 延期のお知らせ		(15)
私の近況		(15)
物故者名簿		(17)

第 95 号  
 令和2年 12 月 1 日発行  
 発行所 〒112-0014 東京都文京区関口3-8-1  
 TEL / FAX 03 (3946) 6352 (直通)  
 獨協同窓会 発行責任者 木原正義



<http://www.dokkyo-meiji.com> <https://www.facebook.com/groups/297418860299984/>

## まだまだ続く新型コロナウイルス感染症との闘い

会長 木原正義 (昭和47年卒)

人類の歴史は感染症との闘いの歴史であり、多くの病原体(ウイルス、細菌、スピロヘータ、リケッチアなど)によりたくさんの死者を出す中で、それらの経験をもとに感染予防と治療において医学は飛躍的に進歩してきました。

しかし、昨年12月に中国の武漢で発生した新型コロナウイルス感染症は今もなお世界中で猛威を振るい、11月1日現在全世界の感染者数はおよそ4700万人、本邦でも10万人に達し、未だに衰える気配がありません。

コロナウイルスは現在多くの種類が発見され、冬季に流行する風邪の10-15%はコロナウイルスの中のH-CoVが原因とされている。しかし2002年に発生したSARS-CoV(重症急性呼吸器症候群)や、2012年に発生したMERS-CoV(中東呼吸器症候群)、そして現在流行しているCOVID-19ウイルスもすべてコロナウイルスの仲間であり、高熱などの風邪症状から始まることが多く、重症者は呼吸器障害に陥り死に至るケースも多くみられます。

さて、母校では新型コロナウイルス感染症予防のため3月2日より休校処置を取り、同窓会も学校内への出入りを制限するとともに各種の委員会、常任幹事会、幹事会を中止あるいは延期とし、Web会議や少人数での会合で対処してきました。そんな中6月20日に定期総会が規模を縮小して行われ、令和元年度事業報告および収支決算、令和2年度事業計画案および収支予算案が承認されました。皆様の多大なるご支援、ご理解に感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染症と最前線で立ち向かっている医師、看護師をはじめとする医療スタッフの皆様、

さらに薬品、医療機器関連の皆様、そして医療とは直接関係のない多くの皆様。また、休業を強いられて経済的にも苦しい中で日々このウイルスと立ち向かっておられる皆様。これらすべての皆様に改めてお礼と感謝の意を表すとともに「新型コロナウイルス感染症に立ち向かっているすべての獨協人へ」という応援メッセージを込めてシールを作成しました。



また、今回同窓会にいくつかの経験談や苦労話が届きましたのでその一部を特集でご紹介いたします。

現在同窓会活動はコロナ禍において十分な対策を施しながら月、木曜午後同窓会室で事務活動を継続しております。秋に行われる予定の幹事会(アルカディア市ヶ谷)は中止といたしましたが、来年度の総会に向け各種委員会、常任幹事会を開催して十分な話し合いを行い、幹事会で議決していただく所存ですが、現在のところWeb会議で行う予定です。

今年度の行事が次々に中止や延期され、事業計画も大きく変更されましたが、来年度に向け事業計画案、収支予算案を現在作成中です。また、大きな課題の一つであるホームページの刷新もなんとか今年度中に完成予定です。同窓会役員の高齢化が進み、平均年齢60歳を超えた「おじさん達」が一生懸命母校の発展、獨協同窓会のために頑張っています。至らぬ点は多々あると思いますが、今後ともご理解、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

# 令和2年度通常総会・懇親会報告

幹事長 沖山 秀 司 (昭和49年卒)

## 通常総会

令和2年度通常総会は、6月20日(土)午後3時から母校中会議室にて開催され、執行部に加え4名の会員が参加されました。新型コロナウイルスの蔓延に際し、総会前特別講演会及び懇親会を中止すると共に、会員の皆様には「決議事案賛否回答書」及び「委任状」の返信をお願いしました。

結果、委任状=225通 決議事案回答書=165通が得られ、独協通信94号に掲載した1号議案～4号議案は承認されました。

この度は、過去最高となる合計390通に及ぶ委任状等が得られました事に、会員の皆様に感謝申し上げます。

総会に先立ち、渡辺校長からご挨拶を賜り、4月から副教頭に就任された大山智輝先生(地学)が紹介されました。

総会時に発表しました資料(スライド)より一部をご紹介します。

### ① 支出

執行部一丸となり、コスト削減を目指した結果、支出額の減少が継続されています。

### ② 収入

2010年度をピークとして2016年度から3年連続減収となっています。

### ③ 収支差額金

支出額抑制が収入額の減少を上回っているため収支差額金の増額が継続しています。

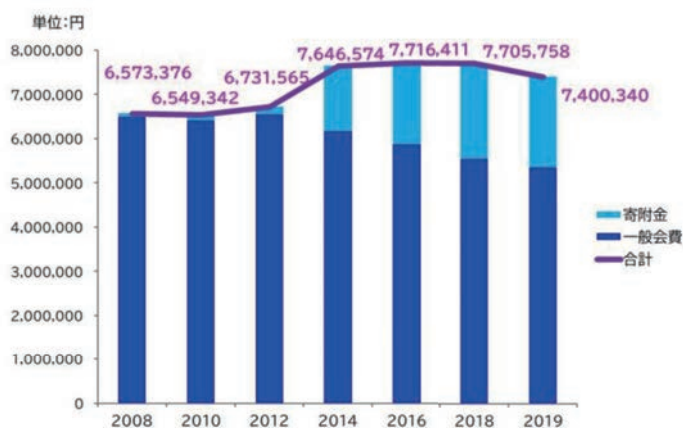
### ④ 一般会費の減少

寄附金は増加していますが、一般会費納入額の減少に歯止めがかかりません。



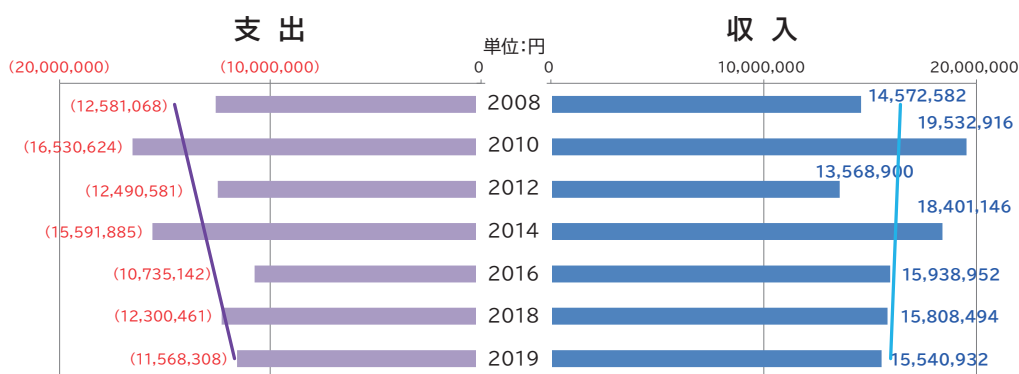
総会当日の参加者

## 一般会費納入額 と 寄附金納入額

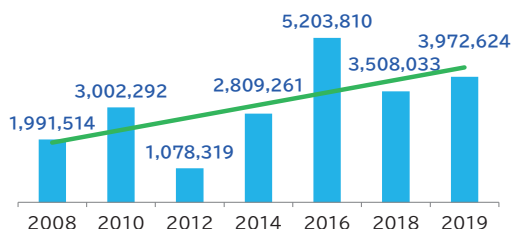


会員の皆様には、年会費の継続納付をお願い申し上げます

## 収支の推移



## 収支差額金



# 目 白 だ よ り



## OB講演会 2020年8月8日

### ～医学・歯学を志す生徒に向けて～

進路指導部長 齋藤有子

「谷田貝先生、後輩のためにぜひ話を聞かせ願えませんか。」谷田貝茂雄先生は現在日暮里でクリニックを開業し、第一線で活躍なさっている現役医師でいらっしゃる。たまたまお仕事で本校にいらした時に、生徒に対して気さくに声をかけてくださるお姿を見るにつけ、さぞかし患者さんからも色々と頼られる方なのだろう、しかもこのような状況下ですますお忙しいのだろうな、とは推察できた。しかし、医学部を志望する生徒・保護者の顔を思い浮かべると、医師という仕事について現場の立場から熱く語ってくださる方がほしい。電話をかけるのもためられたが、先生は「いいですよ、やりましょう。何分くれるの?」と即断即決、快諾して下さった。



当日は医学部の制度、必要な学習等についてまず駿台の医学部専門校舎長から説明をしてもらい、その後、30分程度の短い時間ではあったが、谷田貝先生にご登壇いただいた。診療の隙間を縫っていらして下さったため、講演開始ぎりぎり到着なされたが、そこは場数を踏んでいらっしゃる先生のこと。小講堂入口の扉をくぐった時から、疲れた顔一つお見せにならず、パリッとスーツを着こなして颯爽とマイクをお持ちになる。

今回の聞き手は高校1年・2年の医学部進学を選択肢の一つと考えている生徒・保護者、合計約100名。医師という仕事のやりがいや困難さ、日々向かい合っている現実を伝えていただくだけでなく、医学部入試の高いハードルに立ち向かえるよう、励ましてやってほしいというこちらのあれもこれもと言った要望に応じて下さった。数多くの写真に解説を加えながら、立て板に水の語り口（さすが江戸っ子）に私も最前列で聞き惚れていたが、ここでは特に印象深かったことを2つ挙げておきたい。

1つは、仕事に対する真摯な姿勢である。私が担当する高校3年生対象医学部小論文では、よく「患者への全人的なケア」という用語が出てくる。人の様々な痛みをケアするなどわかったようなつもりになっていたが、例えば商店街での雑談も患者の情報である、苦しんでいる患者から呼ばれると疲れていても出かけていく、といった話を伺うにつけ、患者の辛さを少し

でも和らげようとするこの姿勢こそそれなのだ、と感じると同時に、職種は違えども仕事にかける情熱に胸をつかれる思いであった。

そしてもう1つは、獨協生のつながりの深さである。卒業して何十年も経つというのに、今でも折を見て集まっては高校時代のような軽い話に興じたり、かと思えば「こいつなら俺の体を任せられる」と、ご自身の手術を獨協の後輩に任せたり。都立高校出身の私には、ここまでのつながりの深さはない。そもそも、この企画自体「後輩のためならやる」と言った先輩の心意気によって成り立っている。心底獨協生が羨ましく感じられる時間であった。

最後に一言。「後輩のために、学校のために」と一肌脱いでくれる卒業生が、獨協には他にも大勢いる。獨協生自身が、獨協という学校の大きな財産なのだ、と最近大いに感じるところである。



日経 MOOK で母校の話題が紹介されました。ご覧ください。

<http://www.dokkyo.ed.jp/wp/?wpdmdl=14454>



# 「日本誌」の著者ケンペルの生地で、獨協の大先輩の句碑に出会う

木田宏海（昭和46年卒）

日本に最初にやって来たドイツ人医師と言われているエンゲルベルト・ケンペル（1651～1716）の名は、元禄時代の日本の貴重な記録者として有名である。ケンペルについては、獨協の諸先輩方が過去の独協通信に寄稿されておられるが、今回私も少し獨協との繋がりで触れてみたい。

彼はドイツ北部レムゴー出身の医師・博物学者で、スウェーデン、ロシア、中東、東南アジアなどを經由した後、オランダ商館付医師として1690～92年の約2年間出島に滞在し、5代将軍・綱吉にも謁見している。滞在中、日本の博物学的研究に取り組み、1694年にドイツに帰還した。イギリスの医師・収集家ハンス・スローン（1660－1753）は、ケンペルの遺品・遺稿を買い取り、それをもとに「日本誌」をまとめ、1727年に出版した。シーボルトが来日する96年前のことである。

2011年は日独交流150周年の年であった。日本とドイツで様々な記念イベントが行なわれ、エンゲルベルト・ケンペルの講演会もあった。ケンペルに興味を持った私は、2014年春に彼の生地レムゴーに、デュッセルドルフから車で向かった。レムゴーは人口約4万の中世ハンザ都市である。街の一角にエンゲルベルト・ケンペル記念公園があった。そこで日本の灯籠と、俳句「花と咲く 元禄の世の 見聞記」の句碑を見つけた。何と俳句の作者は、明治42年獨協中学卒の医師・俳人として著名な水原秋桜子氏（本名：水原豊）であった。そして灯籠は「エンゲルベルト・ケンペル協会・日独友好の会」を1971年に創立された石橋長英氏（明治44年獨協中学卒、獨協医科大学初代学長）によって寄贈されたものであった。お二人

とも獨協卒の著名な大先輩だったので、とっても誇らしく思った。

ケンペルの「日本誌」は、彼が集めた日本の調査資料がイギリスに買い取られ、ケンペルが亡くなって11年後の1727年に、最初英語で出版されたものである。ドイツ語版はそれから50年後の1777年に発行された。日本語訳『日本誌 日本の歴史と紀行』が出版されたのは、それからさらに約200年後の1973年であった。そしてこれを和訳されたのは、大正10年獨協中学卒の外交官今井正氏である。昭和52年12月発行の独協通信第9号に『ケンペルの「日本誌」今井正』というタイトルで、ご本人が寄稿されている。今井氏はこの本の日本語全訳がないことを知り、全訳本を出す意義を感じたそうである。ちなみに水原秋桜子の句碑の独訳「In voller Blüte steht heute die Beschreibung aus der Genroku-Zeit」も、今井正氏のものである。このように日本に最初にやって来たドイツ人医師のケンペルについて調べて行くうちに、獨協の諸先輩方の偉業を知ることが出来、大変有意義なレムゴー訪問となった。



本年1月、本邦で初の新型コロナウイルス感染症患者が確認されて以来、未だに解決を見ない今日、コロナ禍で闘う同窓生たちの報告です。皆様方のご参考になればとご紹介申し上げます。



大宮医師会が運営するPCRセンター

## 大宮医師会 PCR センター構築に向けて

桃の里内科クリニック

桃木 茂 (昭和53年卒)

さいたま市にあります大宮医師会で副会長をしている桃木です。5月3日に新型コロナウイルス感染症宿泊療養者の健康観察のため、さいたま新都心にある「アパホテルさいたま新都心」にて執務しました。その報告をFace Bookに掲載したところ、旧友の谷口有三君から暖かい応援メッセージを頂きました。それと同時に、谷口君のお仕事で関係する愛知県のさくら折紙さんの設計で、香川県にある紙器・段ボール会社のグッドワークさんが製造した「どこでも診察室」(後に「どこでも発熱外来」)をご紹介いただきました。これは、段ボールで製作されたボックス内に医師と患者さんが相対して座り、医師が段ボールに空いた穴から両腕を出して、患者さんの鼻咽頭から綿棒で検体を採取する簡易型の発熱外来用診察室です。検体採取に伴う飛沫を最小限に抑制することができ、医療従事者への新型コロナウイルス感染症PCR検査での感染リスクを減少させることができます。また、コストも安く、短時間に組み立てでき、移動、廃棄が可能というものでありました。

谷口君は医療崩壊を抑制するため、自分たちができることを考え、医療従事者を感染から防御することが最善であると考えられ、このような製品を作られたとお聞きしました。医師会では5月12日からドライブスルー方式でPCRセンターを開設する準備のなか、「ウォークインの患者さんにどのように対応するか」という問題がありました。5月8日のPCRセンター運営委員会で、谷口君から紹介いただいた「どこでも発熱外来」を紹介したところ、安価で、撤去可能であることから、ウォークインの患者さんの対応策として使用することに有用性があると判

断し採用が決まりました。

早速、谷口君に連絡し、5月12日から開始する当医師会のPCRセンターに設置して頂きました。発注から検査開始まで、時間的余裕のない中、迅速に対応していただき、検査開始日に間に合わせて頂きました。使用開始までの間に、いくつか修正をお願いし、使用開始時にも実物を確認したうえで、更なる改善をお願いしました。現在は、改良版を使用しています。

当医師会で開設しているPCRセンターでは「どこでも発熱外来」を写真のように屋外で使用しています。材質が段ボールということもあり、雨水や湿気に少々脆弱ところがありますが、それ以外の時には耐久性は十分です。お陰様で、ウォークインの患者さんに対して、安心してPCR検査を実施することができます。

高校卒業以来、別々の道を歩んできた同級生が時を超え、新型コロナウイルス感染症の終息に向けて同じ目標に向かいあえたことは、頼もしくまた、喜ばしく思います。ありがとうございました。

まだまだ、withコロナの時代は続くと思います。終息まで、お互いに頑張りましょう。



谷口さん(左)・桃木さん(右)



改良型どこでも発熱外来

## 産科領域における 新型コロナウイルス感染症の現状と対策

星合勝どきクリニック

星合 明 (昭和 54 年卒)

獨協中、高を卒業後、獨協医科大学に進み 33 年間祖父、父、と三代にわたり産婦人科医師として仕事をしてまいりました。現在、長男は獨協医科大学にて初期研修をさせて頂いております。皆様もすでに今回のコロナに関する情報は連日報道される内容で多くの知識を習得されていらっしゃると思いますが、私からは産婦人科、特に妊娠分娩についての現状について、ポイントをお話したいと思っております。

一番にご理解頂きたいのは、妊娠中に新型コロナウイルスに感染しても、お腹の赤ちゃんに異常が生じたり、死産、流産を起こし易いと言う報告は現在ありません。皆様のご家族で今妊娠中の方がいらっしゃる場合は、先ずこの事は覚えておいてください。

もともとコロナウイルスは風邪のウイルスですから。しかし、出産が近づくと当然お腹が大きくなり呼吸に負荷がかかります。季節性インフルエンザ感染症と同様に新型コロナ感染症にかかりますと肺炎が重症化する傾向は否定できません。妊娠中、とりわけ妊娠後期では不要不急の外出を控え、より一層の感染予防に努めて頂きたいのです。これは妊婦さん本人だけでなく、ご家族も日々注意をはらい協力してください。新たに加わる家族を守るために、何卒よろしく願いいたします。

また一方、お産をお受けする産科医療機関では、妊婦さん、お産後のお母さん、そして新たに誕生した新生児を新型コロナウイルス感染症から守り、そして院内感染を防止するため、外来受診付添制限(妊婦健診に心配で付き添ってこられるご主人ご家族の制限)、立ち会い分娩制限、お産後の面会制限を実地している産科医療機関もあります。

何卒皆様のご理解、ご協力を頂き、安心してお産をして頂くように取り組んでおります。

## コロナ禍に於ける 循環器救急病院の立ち位置

岩槻南病院

丸山 泰幸 (昭和 59 年卒)

当院は 24 床の循環器専門病院で、他に 36 床の人工血液透析ベッドを有しております。新型コロナウイルス感染症拡大前は、循環器救急病院として年間約 80 件の急性心筋梗塞を含んだ急性冠症候群などの専門治療に携わっていました。発熱や呼吸苦をはじめとし、さらには CPA(搬入時心肺停止例)を含む救急患者に対応し年間約 600 件の救急搬送を受け入れて来ました。

ところが昨今の新型コロナウイルス感染症が取り沙汰されてからは、多くの医療機関と同様に受診控えによる外来患者の減少に加え、当院では心不全や虚血性

心疾患を含む心臓病患者や人工血液透析医療も行っている観点から、発熱や呼吸苦のある患者の救急搬送受け入れをお断りするケースが度々みられるようになりました。しかし緊急搬送で受け入れた患者の中には入院後に発熱や呼吸苦が出現する方がいる事から、そのような患者様に対しては十分に感染防御策を行った上で胸部 CT を撮影し、COVID-19 が疑われる方には、自院での PCR を行なっております。

最近では地元医師会でもドライブスルー形式での PCR を行なっており発熱患者に関しては必要に応じて医師会の PCR 検査に回しています。

また人工血液透析患者や救急搬送された患者に 2 日以上発熱が確認された場合には、新型コロナウイルス抗原検査を実施しています。

まだまだ新型コロナウイルス感染症は、確立されたワクチンと特効薬の開発ならびに供給には時間がかかりそうですので、国民一人一人の自覚と予防策の徹底を行い高齢者や基礎疾患を持つ感染リスクの高い患者を守る必要があると思っております。皆様の引き続きの自粛と予防をお願い致します。

## コロナ禍における IMS グループの取組み IMS グループ板橋中央総合病院

理事長 中村 哲也 (昭和 52 年卒)

令和 2 年 1 月、日本国内で新型コロナウイルス感染者を初確認しました。2 月に日本政府が指定伝染病および検疫感染症に指定し、医療業界に限らずすべての国民が緊張に包まれました。

私ども IMS(イムス)グループ(関東、東北、北海道などで救急告示医療機関を中心に総合医療福祉事業を展開)では、1 月 28 日に「新型コロナウイルス対応マニュアル初版(現在は 7 月 9 日に第 9 報)」を発行し感染対策を開始しました。

3 月上旬に東京都内総合病院で初となる院内陽性患者が発生し、同中旬にグループの埼玉県内総合病院で職員がコロナ患者から感染したケースが認められました。これにより院内感染ということから外来診療と救急外来を 14 日間停止することになりました。この頃になると全国で感染者数が急増し、職場でもマスクなどの衛生材料が不足するようになり、代用品で賄う荒業でしのぐようになりました。そんな緊張と混乱の中、救急医療の最前線は、自分の命も引き換えるぐらいの医療者としての気概を持つ医師や看護師が支えてくれました。私自身も患者受け入れ状況、感染者数、マスクなどの衛生材料の在庫、職員の行動指針などを一元管理する「新型コロナウイルス感染対策本部」を主管し、クラスター発生防止に力点を置いた統括を開始しました。

そして日本国内の感染者数増加に伴い院内の感染予防対策の整備をすると共に、職員自らが院内感染を起こさない、または職場外で感染しないようにする努力を求め、現在も職員一丸となり徹底した感染対策の継続をしています。

第2波と言われる今日では、個人および企業・団体などにおいて「感染を否定したい」もしくは「感染が心配」というニーズにお応えし自費PCR検査を導入し、各地域にて地域貢献を進めています。

自費PCR検査のお問合せ窓口  
「イムスPCRコールセンター」  
(☎ 03-3989-1142)

## 内科開業医の立場から

やたがいクリニック

谷田貝 茂雄 (昭和51年卒)

私は荒川区日暮里で診療所を開設しています。まだコロナ禍初めの頃2020年2月25日厚生労働省は「新型コロナウイルス感染症対策の基本方針」を、3月18日東京都医師会は「新型コロナウイルス感染症対策について」というメッセージを出しました。この中で感染が疑われた場合、まず「かかりつけ医に相談する」と明確な手順が示されています。患者さんが自らPCR検査を希望されて保健所や帰国者・接触者相談センターへ電話をしても通じない状況が続き、大混乱を起こしました。私の診療所では、発熱者は他の通常の外来患者さんと交わらないよう分けて丁寧に診察し、必要性を判断した際には近隣のPCRセンターに紹介することができました。

この大混乱から「かかりつけ医」を持たない方がいかに多いかを実感しました。私の拝診する患者さん達は2世代3世代にわたり御家族の背景や習慣なども把握しています。その上で新型コロナウイルス感染症に対応することができています。

現在は、PCR検査可能数は増加し診療所でもPCR検査や抗体検査が可能になりつつありますが、今後に備え、お住まいの近隣に気軽に相談できる「かかりつけ医」を持つことをお勧めいたします。



どこでも発熱外来  
(ダンボール製)

## 新富町 割烹 躍金楼

てつきんろう

たにおかひろあき

潤岡 寛晃 (平成6年卒)



外食産業の売上はコロナ禍になる前から減少傾向にあり、中食(お持ち帰り)や内食(自炊など)が増える傾向が続いておりました。そこに、このような外出自粛となると、商売はさらに難しくなります。弊社ではお客様・従業員への感染拡大防止のため、4月半ばから1ヶ月ほど休業しました。

売上は9割ほど落ちた月もあり、いまだ以前の状況まで戻っておりませんが、お弁当やお持ち帰りを始め、通信販売も検討し、お客様に喜んで頂ける物を少しでも増やそうと試行錯誤しております。

このような状況でも営業を続けられるのは家業ということもありますが、お客様からの激励があるからです。そして世界に誇れる和食文化を残し、お客様の喜びの場として営みたいとの思いからです。

松下幸之助氏は、『好況よし、不況なおよし』と言っています。

本当に良い物やお客様に喜んで頂ける物を提供し知って頂ければ、きっとお客様は増えていくと考え、更なる精進と研鑽を積んで参ります。

今後も獨協生としての誇りとバイタリティを見せる好機と思い邁進して参ります。



google map

〒104-0041 東京都中央区新富町 1-10-4  
☎ 03-3553-0365

# ワンダーフォーゲル部 OB会

ワンダーフォーゲル (Wandervogel) = 「渡り鳥」は 1890 年にドイツ・ベルリン郊外のギムナジウム (日本では高校に相当) で速記術を教えていた大学生のヘルマン・ホフマンが生徒とともに森への徒歩旅行を行ったことが発端とされています。

日本では 1930 年代に立教大学、慶應大学、明治大学などで結成され、戦後新制大学の拡大とともに 1955 年までには 20 校で創部されました。獨協学園ではドイツの影響が強かったこともあってか、ワンダーフォーゲル部は既に 1955 年には創部されました。冒険主義、アルピニズムの登頂や登攀を主体とする山岳部とは異にして、ワンダーフォーゲル部は夏山合宿や縦走登山など自然と親しむ活動を主体として活動が始まりました。



北アルプスや東北の朝日連峰や飯豊山の縦走、冬の高妻山など何十キロものザックを担いで山登りをしていました。



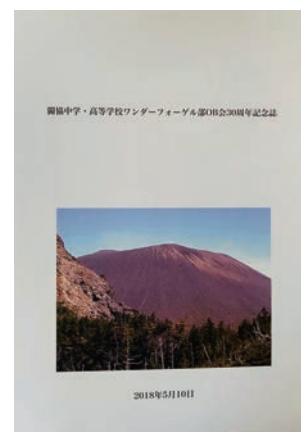
OB 会は 1986 年に設立され、今年で 34 年を迎えました。毎年、春の総会、山行やスキーなどの定例会、秋の親睦会を行ってきました。最盛期には新年会や忘年会、スキー合宿などいろいろな行事も実施してきました。

月例山行として、丹沢山塊、箱根、高尾・道志、奥多摩、奥武蔵、奥秩父、西上州、筑波、浅間周辺、草津、戸隠・黒姫、上高地、越後、鹿沼、奥鬼怒、尾瀬、南会津など四季折々の山旅を楽しんできました。

創部 50 周年にあたる 2003 年には大雪山・旭岳に現役 OB 合同登山を実施しました。秋の親睦会では小諸の日新寮をお借りしてグラウンドで豚の丸焼きなども楽しんできました。



現在は新しい会員の加入や参加が少なく、高齢化しているために活動は停滞気味です。総会と秋の親睦会が中心で、その間に同期や親しいグループで会合を開いたり山行を楽しんだりしています。2016 年には会員相互の交流を図るべくホームページを一新したり、メールマガジンの発行、一昨年は 30 周年記念誌を発行するなど新たな活動に力を入れているところです。そんな中でのコロナ禍で、総会も開くことができない状況が続いています。



登山を続けている会員もいますし、是非声をかけいただき、参加いただけたらと思います。期待しています。

(広報担当役員 S47 年卒 手島達雄)



<http://dwvob.sakura.ne.jp/wp/>  
E-mail [dokkyo.wvob@gmail.com](mailto:dokkyo.wvob@gmail.com)  
facebook @dwvob.jp



「獨協ぶらり旅」では、卒業生が営む飲食店・商店または 各界でのご活躍ぶりをご紹介します。思わぬところに同窓生がいます。お気軽にお声がけしてみたいはいかがでしょうか！

## 昭和エンタメの伝道師!! 「娯楽映画研究者・オトナの歌謡曲プロデューサー」 昭和 57 年卒 佐藤利明さん



7月22日水曜日、新井副会長、沖山幹事長と共に、密を避け銀座の「凜」という喫茶店にて「娯楽映画研究者・オトナの歌謡曲プロデューサー」である佐藤利明さんからお話を聞きました。

佐藤利明さんは、銀座は泰明小学校のご卒業。三学年上の兄上が獨協中学であることから、昭和51年に獨協中学に入学しました。入学後は化学部に入学し高校1年生まで所属。獨協中学に入学後即、熱心に銀座の映画館通いを始めていたため、最初に訪れた「中間テスト」に大層焦ったそうです！

当時は足立区花畑団地からの通学でした。通学途中の銀座は、泰明小学校時代から慣れ親しんだ街であり、毎日のように独りで映画を観てから帰宅したそうです。好奇心が益々旺盛になった利明さん、ジャンルを問わず様々な映画を手当たり次第に観入って現在の素養を吸収して行きました。このように過ごせたのは、獨協の自由な校風（干渉されない）のおかげだったと、ユーモラスに回想されていました。映画代は、親からもらった昼食代で賄ったそうです!!

小学校の時から「男はつらいよ」シリーズが好きで、「寅さんの撮影現場に行きたい」「山田洋次監督に会いたい」という一心で映画を観ていたそうです。高校1年になり、主幹の先生からの進路面接では、「映画評

論家を目指したい」と告げ、驚かれたそうです。

高校卒業後、メディア業界に近づくためバイト先を電通と決めました。それを皮切りに「映画の原稿を書きたい」「TVの製作の現場に立ちたい」という気持ちは一層膨らみ、20歳でTBS系列の制作会社に入り、映画の製作と雑誌編集に携わりました。その後、娯楽映画研究者として「みんなの寅さん from 1969」（アルファベータブックス）を初めとして多くの書籍を上梓されています。

そして、音楽CDのプロデュースやライナーノーツの執筆、ラジオやテレビの構成作家、ラジオパーソナリティー、娯楽映画をテーマに新聞連載や映画ソフトの企画や解説などマルチに活躍中です。

佐藤さんのプロデュースによる作品には、CD「1969」（由紀さおり & Pink Matini）やエノケン、ロッパ、クレイジーキャッツなど歌謡曲、ジャズやサウンドトラックCDなどが有ります。また、テレビ番組「武田鉄矢の昭和は輝いていた」（BSテレビ東京）へのゲスト出演、著書には「クレイジー音楽大全 クレイジー・キャッツ・サウンド・クロニクル」（シンコーミュージック）「石原裕次郎 昭和太陽伝」（アルファベータブックス）など大変なご活躍です。

2015年には文化放送特別賞を受賞されています。

小学校時代から映画が好き、映画の仕事がしたい、という夢を抱き、現在その仕事をしているという生涯設計を羨ましく思いました。

戦前・戦後の娯楽映画を研究する佐藤利明さんは、業界では「昭和エンタメの伝道師」と呼ばれているそうです。

映画からは、当時の時代を読み解く事が出来、時空を超えて楽しむ事が出来るタイムマシーンである。と情熱を込めて語る佐藤さんでした。

toshiakis@me.com



Facebook もご覧ください



左から 新井副会長、佐藤氏、谷田貝副会長、沖山幹事長  
2020年7月22日取材時

## 麴町 うなぎ秋本 昭和56年卒 秋本 斉さん

東京・麴町の「うなぎ秋本」は、明治四十二年に創業。百余年の時を重ねて我が獨協中学高等学校の卒業生が現在 四代目となっていると聞き、長谷達也さん（昭和60年卒）を連れだって、昔ながらの日本家屋で素晴らしい鰻料理をいただきながらお話を伺いました。（2020年8月29日）



秋本さんは番町小学校に在学していました。お母様の弟さんが獨協中学高等学校の出身だったので獨協中学へ入学したそうです。麴町から有楽町線で通学し中学時代は剣道部に所属し、高校時代は数学研究会に所属しました。獨協の思い出は「とにかく楽しかった」「型にはめられず自由だった」「学校全体がサークルのような雰囲気だった」と我が意を得たりの感想をお聞きました。高校時代は、女子校の学園祭に行ったり、通学の途中で江戸川橋の喫茶店に入ったり、冒険して楽しい青春時代を過ごしたそうです。

高校卒業後は獨協大学に進学し、25歳でお父様が営む現在の「うなぎ秋本」に入職したそうです。今でも毎日の仕事を楽しく続けているとのことでした。



お料理は、ご飯と鰻が分かれている「お重」をいただきました。これは歴史的に「コース料理」の提供からこの形になったそうです。鰻は「ふっくら」して、タレはサラリとしています。「お重」の提供については、それまでお座敷でのコース料理のみだったのを、2代目の御祖父様がホール席を増設する際に考案したとの事。コース料理での蒲焼とご飯の形をお重でも提供したいと考え、二段重ねの器をあつらえたそうです。この形の鰻重は珍しいと思います。

秋本さんの鰻は、「割きたて、蒸したて、焼きたて」にこだわり、ふっくらと仕上げているとの事です。これまでの伝統を引き継ぎ新しい鰻料理を常に挑戦する秋本さんはミシュランを獲得し知名度が上がった今でも大事にしている事があります。

それは、「肩肘張らず 気軽にご来店いただける空間をご提供する事」です。

同窓生の皆様方、是非一度訪れて、昔ながらの日本家屋で「気軽楽しむ上質さ」を感じていただければ幸いです。



谷田貝副会長

秋本さん

<https://www.unagi-akimoto.com/menu.html>

定休日  
日・祝・第2土曜日

〒102-0083

東京都千代田区麴町 3-4-4 ☎ 03-3261-6762



home page

google map

# 新宮讓治先生を悼む

獨協大学名誉教授 新井 孝重 (昭和43年卒)

新宮讓治先生が今年2020年8月19日享年90歳にご逝去されました。先生は明治大学政治経済学部を卒業したあと社会科教諭として獨協中学・高等学校に着任しました。

そのころ獨協は天野貞祐先生が校長となり、戦後間もない民主主義の息吹のなかで、ようやくかつての名声を取り戻そうとしていました。目白台の校舎には天野校長を慕う先生たちが集い、空襲で焼け残った建物は粗末でも、知的で澁漶とした空気が満ちていたといいます。

わたくしは、そのような戦後獨協の精神性（エートス）を体現したのが新宮先生ではなかったかと思っています。

獨協の伝統は生徒の余裕派的な思考と行動を可能とする精神の自由闊達さと鷹揚な学問的雰囲気にあると言われていました。こうした雰囲気は暗記や記号選択のテクニックを押し付けるだけの教育では育まれるものではありません。まずは教師自身が多少は世間知らずで浮世離れしていても、教養と学術を大事にする知的な生活スタイルをもっていなければなりません。天野校長はそこを重視していました。新宮先生のゆったりとした、それでいて学問的探究心の旺盛なひとがらは、天野時代の獨協とはよく相性があっていました。

新宮先生が体調をこわして学校を休まれたとき、天野校長がわざわざ見舞いにかかれたのは、天野校長の教育理念と新宮先生の人格が共鳴し合い、ひいては獨協の精神性を新宮先生が体現していたことを物語っているように、わたくしには思えます。わたくしが獨協生（高校生）として新宮先生の講義を受けたとき、そこにはいかにも獨協的な育ちの良さと浮世離れした上品さがみられ、それに何とも言えない魅力を感じたものでした。

1980年代、新宮先生は獨協埼玉高校の創立と経営に尽瘁します。そして教頭職を退いたあとは日本近代史の研究（忠魂碑の調査・戦争と戦没民衆の鎮魂についての研究）にうちこみ、教育関連の学術雑誌にいくつもの論文を投稿し、2001年には単著『戦争碑を読む』（陽光出版）をまとめられました。ところでこうして新宮先生の学問活動が佳境にはいった21世紀はじめ、獨協の学園史関連の事業はひとつの試練に立たされていました。学園本部では百年史編纂事業（1983年創立百年を迎えていた）の支柱をになった齊藤博編



2013年10月22日 130周年記念式典にて

纂主任（獨協大学教授）を病で喪い、のこされた事業をどうするかといったことが大問題となっていました。さいわい当時の梶山皓獨協大学長が親身になってくださり、立派な資料館（獨協歴史ギャラリー・資料センター）の開設をみることができました。このおかげで膨大な資料は散逸をまぬがれたのです。ですが獨協の歴史的な意義と社会的な価値を学園の内外に発信し、獨協の名声を高めるのが歴史ギャラリー・資料センターの役割であるなら、どうしてもそこでの継続的な研究と学術誌の刊行が必要でした。

新宮先生は、卒業生の雪山伸一氏とともに、この骨の折れる仕事に莫大なエネルギーを投ずることになります。先生は国立公文書館に足しげく通い、百周年事業時の史料集から漏れている新史料を大量に掘り起こし、明治期獨逸学協会学校の実相をより豊かにあきらかにされました。毎号高度な論文を寄稿



2013年6月15日 同窓会総会懇親会にて

しつづけ、資料センターを生きた学術拠点ならしめました。

そしてこの学問的エネルギーが、

2007年博士学位論文

「獨逸学協会学校の研究」

(校倉書房から同名单著として公刊)

を結実させたのです。

新宮先生の獨協史探求の旺盛な気力はその後も衰えるところがなく続きました。真夏の炎天下に水原秋桜

子の碑をもとめて獨協医大にまで足をはこび、凍てつくような真冬に学生を連れて往時の目白台をさぐるべく、学習院、日本女子大、カトリック教会、永青文庫、目白坂などを訪ね歩きました。先生の後について歩いたわたくしには、そのころの先生のいかにも快活で楽しそうな様子が、ついこのあいだのこのように甦ります。新宮譲治先生はだれよりも獨協を愛しており、その精神は天野時代の獨協そのものであったと思います。

先生のご冥福をお祈りいたします。

## 畏友 新宮譲治君を悼む

小林 明博 (昭和23年卒)

新宮譲治君は、令和2年8月、鬼籍に入りました。死因は誤嚥性肺炎、享年90才。途中、病による中断を別とし、獨協中学、獨協高校、獨協埼玉と、獨協一筋、43年間の教員生活を送りました。定年退職後、短期間、獨協大学講師も勤めました。ここに、追悼の意を込め、略歴と人柄を述べます。

新宮君は、京都府舞鶴2中、東舞鶴高校の卒業で、小生も戦災に遭い同校で学びました。文字通りの親友で、小生が獨協医大に就任するにあたり、中井卓二郎、磯田仙三郎、小島英の諸先生に紹介してくれました。

新宮君は昭和28年明治大学政治経済学部経済学科を、トップの成績で卒業、同年、獨協中学高校の教諭に就きました。当時の獨協学園は誠に悲惨な状況でした。敗戦後、校名を獨逸学から獨立協和の獨協に改めましたが効果なく、入学応募者激減による経営危機を迎えました。

経営難に続き、生徒側から校長排斥の運動が起き、対抗して学校側は、10名の生徒を退学、3名の主事を罷免しました。双方譲らず泥沼状態が続きました。当時、読売新聞の社会面に、三段抜きの見出しで「名門中学閉鎖の危機」と、内紛が報道されました。果てしない膠着状態の解決に、PT Aが乗り出し、天野貞祐先生の校長就任を求めました。出馬を求める生徒は、天野宅前に座り込む有様。

天野先生は、「田園まさに荒れなんとす、帰りなん、いざ。」の心境に達し、昭和27年12月校長に就任しました。学園の雰囲気は一新、全力投球の天野校長の呼びかけに応じ、新宮君を含む12名が教員に加わりました。新宮君は、着任時、奥田八郎(イモハチ)元教監の厚誼を受けたと聞きます。君は教室内に留まらず、クラブ活動、社会科ゼミ旅行、学園史編纂などに活躍しました。更に獨協埼玉高校に転じ、一時、高校

の教頭を務めました。その経歴上理事長はじめ、先輩、同僚、後輩、関係者、教え子に多くの知己がおります。

定年退職後は専ら家に籠もり、著述に励みました。その主な著作を列記します。

『戦争碑を読む』(光陽出版社、2000年)

『小林良正論「カーデイナル講座派」は戦闘的覚書』  
(『獨協経済』77号、2004年)

『山下君の投稿記事に感あり—元動燃公社幹部  
山下敬一君の論説に—』(『舞友』3巻41号、2004年)

『舞鶴の戦跡—舞鶴第三火薬廠遺構—』  
(『舞友』2巻18号、2003年)

『獨逸学協会学校の研究』(校倉書房、2007年)

獨逸学協会学校の研究は、本文270ページ余、正史に漏れた事実を調べ上げた労作です。それを基に獨協大学より博士号を授与され朝日新聞地方版に高齢の博士誕生が報道されました。

新宮君は、信念の人であります。安易に妥協せず主張を貫きました。75年にわたり交友、会合、会議、旅行などを共にしましたが、愚直と思えるほど自説を曲げませんでした。一時期、ある同人雑誌の編集を君に任せるとき、投稿原稿を克明に調べ、手直しを行いました。その結果、複数の投稿者の不満と怒りを買いました。編集会議の席上、他の編集者を相手に自説を譲らず、半深更まで纏れました。この生きざまを良くも悪くも終生変えずに貫きました。

すべてに真面目で熱意を欠かさず努力、誠実、清廉な人柄が偲ばれます。今、その新宮君を失いました。無念の極みであり、心より哀悼の意を捧げます。

合掌。

# 獨協学園(学び舎)の思い出(同期の甘楽君を偲んで)

森田 孝(昭和30年卒)

都内の環境の良い目白台に聳える場所で周囲は椿山荘、丹下健三の設計の東京カテドラル教会隣に位置する獨協学園に昭和24年4月に中学校に入学しました。中学は現在野球部のグラウンドになっている音羽側に木造の黄色の建物でした。

窓からは鳩山邸が見え、当時首相以前の車の行き来が目撃されてました。

中学1年の担当は本山先生、国語は植田先生、社会は永田先生でした。2年の時に甘楽君と小西君が他校から転校され、授業前の出席簿の名前を云う時、甘楽(ツズラ)君を本山先生以外の先生は読めませんでした。

夏休みには私は初めて北軽井沢のキャンプに参加し、当時は浅間山の登山が可能でしたので、山頂から火口池を見ることが出来ました。3年生の時、三鷹の天文台を見学して、修学旅行は伊勢神宮から京都の平安神宮を見学して、大変充実した3年間でした。ところが、卒業直前に本山先生は突然、辞職の発表があり、吉岡校長も辞職されました。先輩の話によると、二人の意見の違いが合意されず、解決されなかったと聞きました。

高校の入学式は市川校長でした。しかし先輩たちのデモの騒動が激しくなり、見かねて、天野貞祐前文部大臣が予定の学習院総長の職をお断りになり、獨協学園の校長に就任されました。高校から長畑君、大磯君、宮井君等新しい仲間が出来ました。不思議にも現在ま

で時々どこかで会っています。高校時代の部活がなかったので、2年の時、甘楽君、大磯君と多摩川の中流の是政に遊びに行き川遊びで甘楽君が犬掻きを披露しました。長畑君とは放課後、卓球の練習した思い出があります。3年生の時、名目は受験勉強のため、現在の四谷の迎賓館が国立国会図書館として一般に公開され、授業終了後、終了時間まで、受験勉強した思い出があります。修学旅行はその年の秋に洞爺丸転覆事件が発生し、多くの生徒は不参加となり、私も経済的理由で、参加しませんでした。

大学受験は1浪の末、私と甘楽君は中央大学法学部、宮井君は同大学商学部に入りました。卒業後4年間サラリーマンをやりながら、甘楽君と私はジャーナリストを目指しましたが、3年で挫折しました。私は(株)岡村製作所、甘楽君は実家の工務店を引き継ぎ建築士と土地建物取引の国家試験に合格しました。その後定年まで働き、現役の最後の年に獨協学園の同窓会総会に出席した時、そこで古川先生と村松先生にお会いし、同期会に出席を御願いました。古川先生は同期会で必ず、落語を披露されました。古川先生がお亡くなりになるまで、七、八回同期会を催しました。甘楽君は同期会のみならず、長畑君、大磯君、宮井君との旅行に必ず、出席されました。残念ながら、昨年10月に帰らぬ人になりました。彼とは中学2年から何らかの付き合いがあり、私にとって、人生の最愛の友であり続けました。68年間有難うございました。

## 寄付金納入者一覧(「94号」以降)

(敬称略)

小澤武彦(昭和14)	里見治(昭和35)	橋本龍二(昭和45)	矢野剛司(昭和62)
竹内正和(昭和18)	神保孝雄(昭和35)	新井雅安(昭和46)	梶田利文(平成1)
石井進(昭和20)	安藤俊就(昭和35)	西原潔(昭和46)	澗岡寛晃(平成2)
飯田信義(昭和20)	益井邦道(昭和37)	武井雅史(昭和46)	玉井道寧(平成4)
稲葉由樹(昭和23)	小坂弘道(昭和37)	松本利也(昭和47)	堀智智宣(平成4)
末吉信夫(昭和27)	星野紘(昭和37)	上田善彦(昭和47)	小出浩三(平成5)
足立菊保(昭和29)	五十嵐正(昭和41)	奈良隆寛(昭和49)	國松常芳(平成10)
桑嶋陽一(昭和29)	長村洋(昭和41)	木村宗孝(昭和50)	星野剛(平成10)
野村恭弘(昭和30)	大隅敏彦(昭和41)	田中哲也(昭和50)	堀切教平(平成11)
土生裕(昭和30)	平岡徳朗(昭和41)	遠山洋一(昭和53)	高嶋正利(平成19)
山岸郭郎(昭和32)	浅野一(昭和42)	菅正剛(昭和53)	小林友真(平成25)
大橋一三(昭和33)	田丸操(昭和42)	田中良(昭和54)	杉本海(平成28)
高橋龍二(昭和34)	井原泰樹(昭和42)	野村芳樹(昭和54)	小池達郎(平成30)
吉本明康(昭和34)	石井一平(昭和42)	高田正道(昭和55)	大西義基(平成30)
岩佐峰彦(昭和34)	宮崎輝雄(昭和42)	菅谷敦人(昭和58)	飯田佳亮(令和2)
平野雍昌(昭和34)	引間規夫(昭和42)	須田淳(昭和58)	太田温大(令和2)
福井晃(昭和34)	村上喜代次(順)(昭和43)	吉松栄彦(昭和59)	
原鏡一(昭和34)	千葉実(昭和45)	堀井有尚(昭和59)	
國信浩洋(昭和34)	橋本俊春(昭和45)	山崎博之(昭和59)	

ご協力ありがとうございました。今後とも会費納入および財務拡充のご寄付をよろしくお願い申し上げます。

獨協同窓会は任意団体のため、寄付金控除制度の対象になっていません。

確定申告での所得控除や税額控除は受けられませんので、予めご了承ください。

## 昭和44年卒 古希を迎える獨協同窓会

令和2年9月26日(土)に懐かしい思い出残る目白台のホテル椿山荘東京にて、古希を迎える同窓生29名が、新型コロナウイルスの感染が懸念される中、各自健康管理を万全にして集まりました。当日の会場は感染予防の一環で3密にならないようテーブルの間隔をあけ1テーブルの人数も最小限に設定し、又、スタッフが個別に食事を運んでくれる等の徹底ぶり、お陰様で安全・安心の中で楽しい同窓会となりました。

この開催に至った経緯は、今年5月に亡くなった友人の告別式でのこと、たまたま数名の同窓生が弔問に訪れ、そこで「そういえば、今年で皆70歳を迎えるんだね!」中学から数えるともう57年(昭和38年入学)、高校から数えても54年(昭和41年入学)が経ち「ずいぶん長い付き合いだね!」「皆、歳をとったね!」との話から古希を迎えるにあたり「連絡取れるメンバーを集めて同窓会をやろうか?」という事に始まりました。そしてそこにいたメンバー

が中心となり、連絡先のわかる同窓生に電話連絡だけで輪を広げていき今回の開催となりました。

当日は、まず物故者に対する黙祷、そして発起人代表挨拶、乾杯と進み、その後各自近況報告、歓談となりました。懐かしい元気な同窓生ばかりですが、「久しぶり、ご無沙汰、あのあので、みんなニコニコ名前出ず…」で歳も感じましたが、さすが獨協で「医者でなくても、みんな名医に早変わり(もちろん本物の医者も何人かいました)」で健康や家族の話、学生時代の思い出話、近況報告などで話に花が咲き、あっという間の2時間で、時を忘れる会となり、新型コロナウイルスの感染終息を願うとともに、皆さんのこれからの健康とご多幸、そして、より多くの同窓生を集めた又の再会を願っての閉会となりました。

お開き口では、口々に「また会おうね…」「(中には名前が最後まで出ないうちに)じゃーまたね…」と、皆笑顔で帰路につきました。(幹事・磯谷 孝夫 記)



### 獨協同窓会支部会の立ち上げ

地域別の獨協同窓会支部会(北海道、東北、九州、海外等の単位で)を立ち上げませんか。  
ご賛同いただける方は同窓会事務局までご連絡ください。

メール → [info@dokkyo-mejiro.com](mailto:info@dokkyo-mejiro.com) 電話 → 03-3946-6352 (毎週月・木 13:00 ~ 16:00)

## 昭和34年卒業 80歳傘寿記念 合同クラス会延期のお知らせ

今年は皆さん80歳を迎える記念の年になります。日比谷公園の松本楼にて傘寿記念の合同クラス会を開催しようといろいろと企画をしておりましたが、本年は無理なようで幹事の皆さんと電話にて打ち合わせの結果延期を致し、来年の10月31日(日)に開催すべく用意を致しております。

再度、皆さんのご意見を賜り、来年4月頃に往復はがきをお送りし、開催か否かを決定いたしたいと存じます。

60歳 65歳 70歳 77歳と合同クラス会を開催いたして来ましたが今回が最後になると思われま。ぜひご参加賜りましてあの頃に帰って懐かしい友と旧交を温め楽しい時間を過ごしていただければと思っております。今まで素晴らしい人生を送って来られたことに感謝の気持ちを添えて、これからも用心深く健康に気を使い、明るく楽しく元気にのんびり過ごしましょう。

それではお互い頑張りましょう。皆さんとお会いできますことを楽しみにしております。

(昭和34年卒 有我昭藏)

## 昭和54年卒同期会のお知らせ

2020年9月20日に予定していました獨協学園 昭和35・36年生まれの同期会は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、来年の同時期に延期となりました。

幹事:杉村(浩)、柄澤(昭和54年卒 野村芳樹)

## 鉄道研究部OB会開催延期のお知らせ

鉄道研究部は、2020年10月14日に創部50周年を迎えました。

このため、本年秋にOB会開催を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、1年間延期し2021年秋に開催を計画しています。詳細が決まり次第、ご連絡いたします。

OB名簿に、ご登録がお済でない方は、下記メールアドレスにご連絡をお願いします。

獨協中学・高等学校 鉄道研究部 OB 会設立準備委員会  
委員長:小畑康紘(平成26年卒)

記念誌編集担当:谷口 蒼(平成26年卒)

長内俊樹(平成27年卒)

メール dokkyomejirettekken.obkai@gmail.com

(昭和49年卒 沖山秀司)

## 私の近況

●小生96歳の高齢により、頭の方は依然として変わりありませんが、歩行がきつく、外出を控えている昨今です。流行中の新型コロナウイルス感染拡大はつらい局面ですが、何とか乗り越えて懸命に生き抜く所存です!母校の発展を祈るや切!

<桜井 保光(昭和17卒)>

●小生、4月に94歳の誕生日を迎えました。毎年、脳のMRA、MRI検査、胃腸の内視鏡検査を受診していますが異常がなく、日々元気に過ごしています。脳の老化進行防止の一助にもなると思ひ、孫の高校時代の教材などを利用して数学の自学自習を反復しています。

<平澤 昭彦(昭和20卒)>

●私の中学校生活4年間(昭和16~20年・強制的に4年で卒業させられた)は今思えば本当に充実した中学校生活でした。それはあまりにも劇的で、中学も1,2,3年の年令では深く考えることも出来ないで慌しく過ぎたが当時の獨協の五人の先生の教えというより、その自由なただずまいには大きく感化を受けました。もうあこがれ、すごいいいなあー、毎日が心ゆさぶられる充実した時でした。五人の先生、野口先生(英)、相沢先生(教練)、大久間先生(国語)、西村先生(歴史)、田淵先生(理科)です。野口先生、大久間先生には卒業後も時々お会いして多くを学びました。

獨協は本当にいい学校だ!!

<石井 進(昭和20卒)>

●昭和20年5卒の我等、さまざまな國難を掻い潜りつつ齢九十三。今また強力な災害に遭遇。さて、今度の砲煙弾雨、果たして避け得るや。神のみぞ知る。

<畦森 公望(昭和20卒)>

●老化は否めないながら元美術部員として絵を描いています。コロナ休校などで現役諸君の学力が心配されていますが、われら勤労動員世代からも努力によってその後に活躍した人たちが多く健闘を祈ります。母校と同窓会に感謝しています。

<橋本 徳朗(昭和23卒)>

●東京多摩病院に入院中です。文書は読めますので送付をお願いします。独協通信毎号楽しみにしています。

<東山 健吾(昭和25卒)>

●今年は米寿、一昨年までは椿山荘の懇親会に参加していたのですが、相棒もいなくなったので参加を見合わせるようになりました。でも私は未だゴルフ参拝旅行を楽しんでいます。本年はコロナさわぎで世の中暗いムードいっぱいですが、残された人生少しでも楽しみながら生きていこうと思っています。皆さんもコロナに負けずがんばって下さい。

<朝比奈 貴次(昭和27卒)>

## 私の近況

●会社の会長職をして居りますが最近キリスト教に興味を持ち、キリスト教の聖地巡りをしております。バチカン、スペインのサンチャゴデコンポステーラ(150km徒歩して協会のクレデンシャル取得)フランスのルルド(獨協の隣の関口教会敷地奥にルルドの洞窟のレプリカがありますがその本拠)を訊ねました。最後はエルサレムを訊ねます。

＜打矢 之威(昭和31卒)＞

●雨ニモ負ケズ、風ニモ負ケズ、夏ノ暑サニモコロナニモ負ケズ、年ニモ負ケズ年相応に元気で居ります。60才で始めた習字を習い楽隠居で過して居ります。平成30年に師範になりました。しかし上達致して居りません。

＜島田 秀考(昭和31卒)＞

●齢82歳になります。令和元年に心臓弁膜症の手術を受けて無事成功しました。今はリハビリを兼ねてウォーキングや外出を実行して身体を鍛錬しています。独協通信「第94号」の「獨協初代校長西周、150年を超えるオランダ留学の絆」の記事を大変興味深く読みました。獨協の原点を知り、母校の誇りを満喫しました。

＜小川 秀明(昭和32卒)＞

●妻を亡くして4年、三食自炊で元気にしています。好きなゴルフを100回/年目標にジム通いを日課に過ごしています。100歳過ぎてのエージシュートを達成したいと思っています。

＜浅沼 博(昭和35卒)＞

●元気です。コロナがまだはびこっていますが毎日1万歩を目標にウォーキングを楽しんでいます。まるで犬みたいに夕方人出が減ると外に出ます。近所に都立の広い公園があるので楽しいです。

＜島田 英資(昭和41卒)＞

●お陰様で昨年は西周先生とフィッセルング教授のご子孫との150年の時を経て、友好交流会を実現することが出来ました。歯科医師獨協会も9年目を迎えております。今、110年前の竹久夢二の友、美術・文学のマルチクリエイター抽象美術の父・木版画の近代化に貢献された恩地幸四郎(明治42年卒)に魅せられております。

＜池松 武直(昭和42卒)＞

●新型コロナウイルスの感染拡大が続いています。5月に入りやや勢いが収まる傾向が見られ、日頃の緊張感に緩みが生じています。第2波に向けて余談の許さない状況が連続します。新しい日常をモットーに見えない敵に打ち勝とう。

＜田丸 操(昭和42卒)＞

●特に変わりありません。街医者(内科、小児科)をしております。昨今の新型コロナウイルス感染症で、子供を診る機会がほとんどなくなりました。早く終息してほしいです。

＜箕田 進(昭和47卒)＞

●20年前に国際協力で行ったネパール王国で求めた弓奏弦楽器サーランギを弾き続けています。小児科医として発達障害の音楽療法にうってつけです。

＜奈良 隆寛(昭和49卒)＞

●ステイホームを忠実に守り、自宅でじっくり鉄道模型を楽しんでおります。鉄研の皆さんもがんばって下さい。Fight!!

＜梅津 英幹(昭和50卒)＞

●医学部合格者が増えて来ている様で喜ばしいことです。私は東邦大学を卒業し内科医として神奈川県下の済生会病院に勤務しています。今年3月で停年となり現在済生会東神奈川リハビリテーション病院でリハビリ目的で入院している患者様の内科的管理をしています。医師の働き方改革で20才以上若い医師と同等に月4回程当直業務こなしています。

＜大江 健二(昭和53卒)＞

●亀有区民事務所長2年目となりました。テレワークすることもなく、「3蜜」にならないよう、出勤していました。高2、中3、小5の子どもの学力不足が心配です。

＜藤島 一郎(平成7卒)＞

●コロナの影響で私の勤務先も休業となりました。今は解除となり平常授業を始めております。休業中はオンライン希望の生徒を受け持つ事となり、この機にオンライン整備の必要性を痛感しました。教育現場の先生方、獨協医大病院でコロナ治療にあたられる関係者皆様に感謝とエールを送らせていただきます。共に闘いのり越えてゆきましょう。

＜鈴木 俊弘(平成9卒)＞

●100名規模のグローバルなビジネスグループを運営しています。コロナに負けるな!!ピンチはチャンス!!大丈夫!!

＜橋本 大和(平成10卒)＞

●風力発電の開発を行っている会社を経営しております。資源の乏しい日本において化石燃料依存から脱却し、未来のエネルギーミックスを構築するべく、日々微力を尽くしております。獨協OBとの定期的な交流はありませんが、野球部の夏の大会の応援での懐かしい顔ぶれとの再会は密かな楽しみになっております。

＜盛高 健太郎(平成12卒)＞

●インドネシアと英国での駐在期間を終え、6年3ヶ月ぶりに東京に戻ってきましたが、コロナ禍の中外出を控え在宅勤務をしています。同窓生と早く再会できる日を待ちわびる今日この頃です。

＜渡邊 雄介(平成16卒)＞

●国保旭市中央病院での初期研修2年目。日々諸先輩方の御指導のもと仲間に恵まれ充実した毎日を送っております。コロナ禍、緊張感を持ちながら頑張っています!!

＜佐藤 政哉(平成25卒)＞

●川口市立医療センターでの初期研修も2年目となり、様々な体験をさせていただいています。6月には小鹿野中央病院での1ヶ月研修させていただきました。日々諸先輩方、患者さんからいただいている温かいお言葉を大切にこれからも頑張っていきます!!

＜佐藤 侑哉(平成25卒)＞

●今年4月より社会人になりました。

＜竹本 良樹(平成26卒)＞



## 物故者名簿 (『独協通信』94号以降) ご冥福をお祈り申し上げます

卒業年	氏名	物故年月日	昭和20年	青山 義之	2017/11/29	昭和34年	湯本 修明	2019/8
			昭和21年	山田 喬	2019/10/16	昭和36年	藪 康彦	2019/10/19
昭和12年	福本 理	2017/12	昭和21年	今福武次郎	2008/9/17	昭和38年	半田 宏一	2020/3
昭和14年	有賀 境	2007/7/20	昭和25年	阿部 恒三	2019/4/4	昭和41年	沢入 博雄	2020/3/25
昭和18年	尾山 功	2019/3/27	昭和25年	渡辺 利平		昭和41年	五十嵐 正	2019/12/7
昭和19年	新井 賢一	2020/4/3	昭和28年	小野 宏	2019/7/15	昭和43年	佐藤 健一	2020/9/8
昭和19年	泉田 武二	2019/7/23	昭和28年	松木 成好	2016/1/25	昭和48年	平田 正夫	2014/10/19
昭和19年	布施 正博	2019/12	昭和30年	広嶋 敏一	2019/10/20	昭和49年	室町 裕	2019/4/20
昭和20年	采野 浩志	2019	昭和33年	福井 秀義	2019/11/18	昭和50年	吉田 浩治	2015/6/19
昭和20年	萩原 通弘	2018/2/2	昭和33年	湊 進	2020/5/8	昭和52年	森田 道隆	2020/7/16
昭和20年	黒柳 八郎	2017/8/7	昭和33年	山口 肇	2020/4/23			
昭和20年	佐藤 辰美	2018/2/24	昭和34年	岩田 知久	2020/3/3			

## グッズ紹介 昨年の獨協祭でも好評でした!!

- ポロシャツ : 2019年新作がデビューしました(色=インディゴorホワイト)。S・M・L・XL・XXL ございます。2018年モデルは在庫限り(M・Lが少々)です。
- 三色ボールペン : 2019年獨協祭でデビューしました。
- ピンバッチ&カフスボタン : 2018年デビューです。
- 野球部応援グッズ : Tシャツ&キャップ2018年デビューです。



ご希望の方は幹事長までご連絡をお願いします  
 電話 090-9310-1553  
 h-okiyam@fk9.so-net.ne.jp  
 冲山秀司(昭和49年卒)



## 独協通信 96号(令和3年6月初旬発行)の原稿募集

締切日: 令和3年3月末

同窓生の皆様から、ご投稿をお待ちしています。

- ① ドイツ語圏におけるご体験など(800字)
- ② クラス会、OB会、など集いのご報告(200字)
- ③ 獨協の思い出(800字)
- ④ 近況のご報告(200字)

\*頂戴しました原稿への加筆・修正、一部削除などをご承知ください。

\*独協通信は同窓会ホームページにも掲載されますので、ご理解くださいますようお願い申し上げます。

郵送の場合 ➡ 〒112-0014 文京区関口3-8-1 獨協同窓会

メール ➡ info@dokkyo-mejuro.com

電話 ➡ 03-3946-6352(毎週月・木13:00~16:00)

～甲状腺を病む方々のために～

## ITO HOSPITAL 伊藤病院

院長 伊藤公一 (昭和51年卒)

TEL. 03-3402-7411 東京都渋谷区神宮前4-3-6 www.ito-hospital.jp

### NAGOYA 名古屋甲状腺診療所

TEL. 052-252-7305  
名古屋市中区大須4-14-59  
www.kojin-kai.jp/nagoya/

医療法人社団甲仁会  
理事長 伊藤公一

### SAPPORO さっぽろ甲状腺診療所

TEL. 011-688-6440  
札幌市中央区大通西15丁目1-10 ITOメディカルビル札幌5F  
www.kojin-kai.jp/sapporo/

## 医療法人社団 野村会 昭和の杜病院

東京都昭島市宮沢町 522-2

理事長 野村芳樹 (昭和54年卒)

医療療養型 180床・透析ベッド 36床  
入院 (一般内科・透析)・外来透析・各種健康診断随時ご相談ください

TEL 042-500-2611 FAX 042-500-2612

法人経営者及び個人事業主の経営・会計アドバイザー

## 中島達弥

公認会計士

1990年監査法人トーマツ(現有限責任監査法人トーマツ)に入所し、パートナーを経て2020年7月より独立いたしました。  
監査法人勤務30年の経験と人脈を活かして実務家として寄り添い、協働していきたいと考えています。  
病院・医院も含めた全ての業種・業態に対応いたします。

お気軽にご連絡ください

### 中島達弥公認会計士事務所

〒116-0001 東京都荒川区町屋1-29-7

(昭和61年卒)

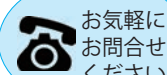
mobile : 090-3478-8233

tat.nakajima@ms01.jicpa.or.jp

## SASAKI LAW OFFICE 佐々木綜合法律事務所

東京都千代田区神田須田町1丁目26番 芝信神田ビル10階  
TEL 03-3255-0091 FAX 03-3255-0094

相続・不動産・企業法務など  
さまざまなお悩みを承っております。



東京弁護士会所属  
弁護士 佐々木広行(昭和61年卒)  
[平成28年度 東京弁護士会副会長]

最前線の医療従事者を守るために  
獨協ドクターズ 全面協力のもとに完成



医療現場の笑顔を増やしたい

有功社シト一貿易株式会社  
YUUKOHSHA CITO TRADING CO.,LTD.

URL <https://www.yct.co.jp>

(昭和53年卒) 代表取締役 谷口 有三

## 神保町行政書士事務所

医療法人専門

医療法人設立・診療所開設・移転・分院開設等の  
許認可届出の初回のみは無料の出張相談承っております

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1 倉田ビル1F  
電話:03-3291-3505 FAX:03-5281-5530



代表: 島田 敏樹 (昭和51年卒)  
e-mail : shimada@jimbocho-office.com

<http://jimbocho-office.com/>

## 協賛広告募集

同窓会では、財務体質改善の一助として、「独協通信」紙面上の協賛有料スペースへの広告掲載を募集しています。会員の皆様から、個人名又は法人名での広告掲載も受け付けています。ご希望の方は、同窓会事務局にお問い合わせご相談ください。「広告掲載取扱い規定」により対応いたします。なお、次号掲載は、「独協通信」96号で、令和3年6月発行を予定していますので広告原稿・版下の入稿締切は、3月中旬となります。①発行部数約12,000部、②掲載料金大枠が4万円、小枠が2万円。

### 若手の同窓会スタッフを募集しています

同窓会の運営に参加いただける方を募集しています。  
独協通信の編集、獨協祭での展示や同窓会運営のアイデアなど、平成の風を欲しています。  
年に数回の会議に参加可能な方、ご連絡をお待ちしています。

### 独協通信OB会紹介コーナーについて

独協通信92号から新たにOB会紹介コーナーを設けましたので、振ってご投稿ください。  
文字数・写真などは本通信8ページのワンダーフォーゲル部OB会をご参考にしてください。

メール → [info@dokkyo-mejiro.com](mailto:info@dokkyo-mejiro.com) 電話 → 03-3946-6352 (毎週月・木 13:00～16:00)